

北前号で行く！ 北前船寄港地交流 酒田モニターツアー ～日本遺産・みなとオアシスを活かした地域活性化～

酒田市 地域創生部 商工港湾課
交流観光課

1. はじめに

酒田市は、山形県の北西部、最上川と日本海が
出会う河口に位置し、古く室町時代から海運、水
運の拠点として発展してきた港町です。港を中心
にまちがつくられ、港とともに発展してきました
が、江戸時代に河村瑞賢による西廻り航路の開拓
によって隆盛を極め、全国にその名を轟かせてい
たとされています。

現在、酒田港は、山形県唯一の重要港湾として
地域の経済と暮らしを支えています。平成 29 年
には、コンテナ取扱貨物量やクルーズ船寄港の増
加、賑わい創出の活動などが評価され「ポート・
オブ・ザ・イヤー 2016」を受賞しました。古の
時代から現代まで、港が地域の活力の礎となっ
ているとともに、北前船によって運ばれた上方文化
が今も街中に色濃く残っています。

また、日本海の北西約 39 km の沖合には、鳥
海国定公園に指定されている離島・飛島を有し、
四季折々に表情を変える豊かな自然に恵まれた風
土でもあります。

このような先人が遺した歴史文化や自然の魅力
を活かして、近年は観光・交流事業にも力を入れ
ており、平成 28 年には、本市を含む鳥海山周辺
の 4 市町で申請した「鳥海山・飛島ジオパーク」

が日本ジオパークに、平成 29 年には、本市が代
表自治体として申請した「荒波を越えた男たちの
夢が紡いだ異空間 ～北前船寄港地・船主集落～」
が日本遺産に認定されたところです。



写真－1 酒田港と鳥海山
(国土交通省 東北地方整備局
酒田港湾事務所提供)



2. ツアーのねらい

今回ご紹介する「北前号で行く！北前船寄港地
交流酒田モニターツアー」（以下、「ツアー」とい
う）は、ポート・オブ・ザ・イヤーの受賞と日本

遺産および日本ジオパークの認定を契機として、北前船がもたらした人・もの・文化を体験し、北前船寄港地酒田の魅力発信につなげていくとともに、平成17年に認定された「みなとオアシス酒田」をはじめとする港湾インフラを活かした地域活性化方策の検討につなげていくことをねらいとして実施しました。

ツアーの参加者は、市外の方から見た率直な意見をお聞きするため、秋田市で募集しました。また、秋田市と酒田市は、かつて北前船の寄港地であった縁をととして観光・文化・スポーツの各分野で交流を行っており、一層の交流促進を図ることも目的としました。秋田市の広報紙に記事掲載して参加者を募りましたが、受付開始から1時間で定員に達し、最終的には59名が参加しました。なお、ツアーに申し込んだ理由は、訪問先(31%)、代金(30%)、日程(15%)という順でしたが、自由記述で「飛島に行ってみたかった」という回答が複数あり、離島独特の神秘的な魅力への関心が高いことを認識しました。



写真-2 ツアーパンフレット(表紙)

3. 実施概要

今回のツアーの行程を検討するにあたっては、さまざまな年齢層や体力の違いを考慮して、時間にゆとりを持たせながらも、飽きのこない内容を心がけました。また、単に見学するだけでなく自ら体験する機会を設けることや、全行程にガイドを配置して訪問先の成り立ちや背景について理解を深めていただくことも重視しました。

表-1 ツアー行程表

■平成30年9月15日(土)	
8:00	秋田港集合 ~ (バス) ~
10:15	玉簾の滝
12:10	相馬楼(昼食・舞娘演舞鑑賞)
13:10	まち歩き(山王くらぶ、日和山公園、山居倉庫、映画「おくりびと」ロケ地ほか)
16:35	みなとオアシス酒田
18:00	鳥海山荘ほか(夕食・宿泊)
■平成30年9月16日(日)	
9:00	酒田港 ~ (定期船「とびしま」) ~
10:15	飛島まるとジオツアー
15:00	飛島・勝浦港 ~ (定期船「とびしま」) ~
17:30	秋田港(みなとオアシス秋田港)

(1) 玉簾の滝

最初に、鳥海山の麓にある玉簾の滝を見学しました。玉簾の滝の落差は約63mで山形県内随一の高さを誇り、鳥海山・飛島ジオパークの見どころ「ジオサイト」の一つとなっています。鳥海山・飛島が日本ジオパークに認定されていることを事前に知っていた、という参加者は36%に留まっており、多くが玉簾の滝を初めて見たという方々でしたが、75%の方から満足したという回答をいただきました。水しぶきが肌に当たるほど間近で見る滝そのものの迫力に加え、ガイドの説明でここがかつて海底であったと知り遙かな時間の流れを感じた、との感想がありました。



写真－３ 玉簾の滝でジオ（大地）の活動を感じる



写真－４ 山王くらぶでの傘福制作体験

(2) 北前船寄港地のまち歩き

次に市街地に入り、相馬樓で酒田舞娘の演舞を鑑賞しながら昼食をとりました。相馬樓は、江戸時代から酒田を代表する料亭であった相馬屋を修復して公開された建物です。演舞終了後には舞娘さんと一緒に撮影する列ができ、79%の方から満足したとの回答をいただきました。また、館内に所蔵される貴重な美術品を見ることができ良かった、建物の造りの良さがわかる、といった声も多く聞かれました。

昼食後、まち歩きをスタートしました。このまち歩きコース上には、NHK「ブラタモリ」の収録が行われた場所もあることをガイドから紹介すると一様に驚きの声上がり、メディアの発信力と影響力を感じました。

はじめに訪れた山王くらぶは、竹久夢二が酒田で常宿とした歴史的建造物であり、平成15年に国の登録有形文化財に登録されています。ここでは、館内見学と傘福の制作体験を行いました。傘福は、江戸時代から家族の幸せや子どもの成長を願って作った飾りを傘に吊るして、神社仏閣に奉納したものです。制作体験の感想は男女差が大きく、女性は楽しかったという回答が多かったものの、男性は難しかったという回答が目立ちました。

その後、みなとオアシス酒田の構成施設である日和山公園から、山居倉庫へとまち歩きを楽しみました。日和山公園からは酒田港本港地区が一望でき、北前船寄港地の雰囲気を感じながら、近代的な臨海工業地帯を望むことができます。工場見学もしてみたいとの声もあり、そのような異なる組み合わせもおもしろいと思いました。山居倉庫は本市の代表的な観光施設であり、訪れたことがある方も多くいましたが、いつ来ても趣がある、ガイドの説明を聞きながら見学するとまた違った印象がある、といった感想が聞かれました。

まち歩き全般としては、秋田市と酒田市の共通点を感じる、比較的コンパクトなエリアに歴史的な建物がいくつも存在しているので徒歩や自転車で観光をするのに向いている、などの感想が聞かれました。



写真－５ 山居倉庫と櫛並木

(3) みなとオアシス酒田

1日目の最後は、みなとオアシス酒田の中核施設である酒田海洋センターで港湾の役割やみなとオアシスの機能について学びました。みなとオアシスという言葉を事前に知っていた方は19%しかいませんでしたが、説明や見学を通じて、地域住民や観光客の交流・休憩機能や、交通に関する情報提供、災害時の拠点機能などを担っているということを実感していただいた様子でした。また、みなとオアシス酒田への要望として、自由に食事ができるスペースの設置や、季節ごとの催しものがあれば楽しいのではないかと、いった意見がありました。今後は秋田港など、他港と連携した広報活動なども考えていきたいと感じたところです。



写真-6 酒田海洋センターで港湾の役割を学ぶ

(4) 飛島まるごとジオツアー

2日目は、酒田港の定期船発着所（みなとオアシス）から飛島に渡り、ジオガイドが同行するジオツアーを行いました。山形県唯一の離島である飛島は周囲10kmの小島で、過疎化・高齢化が進んでおりコミュニティの維持が困難となりつつある現状にありますが、近年は若者が移住して起業や事業継承に取り組むなどの明るい話題もあります。また、釣り客やバードウォッチャーにとって特別な場所であり、本市では、ジオパーク認定をきっかけに、大型連休の子どもの定期船乗船料を無料にするなど来島者拡大に取り組んでいます。

ジオツアーは、体力や関心に応じた3つのコースを用意しました。各コースとも、遊漁船を使った島内クルーズや、特製イカカレーを昼食に準備

するなど、ここでしかできない要素を盛り込み、自然の宝庫・飛島を堪能していただきました。参加者からは感動した、また来たい、本当にワンダーランドだった、などうれしい感想をいただいた一方、不漁が続いたため海産物などのお土産物を現地で購入できなかったのが残念、という声が聞かれました。



写真-7 ジオガイドのユーモアを交えた説明

(5) 秋田へのクルージング

本市が運航する定期船「とびしま」は、市街地と飛島を往復する唯一の定期船であり、島民にとって欠かせない足となっています。そのため、荒天時を除き毎日定時運航していますが、年に1度の法定点検の期間は代替船を借り上げて運航するため、船が2隻あります。この機会を活かして、「とびしま」を半日間貸切にして飛島から海路で秋田に帰りました。海上から秋田を見るのは初めて、という参加者も多く、潮風に吹かれながら、約2時間半のクルージングを楽しんでいただきました。「とびしま」の船員やスタッフにとっても貴重な経験となり、海洋観光の魅力と可能性を感じました。



写真－8 「とびしま」のデッキから見る「ポートタワーセリオン」(みなとオアシスあきた港)

4. おわりに

ツアーは幸い2日間とも天候に恵まれ、予定していた行程を無事実施し、参加者の皆さんから喜んでいただいた実感がありました。運営側にとっても、新たな気づきや課題の発見といった直接的な成果のほか、参加者の関心を引き出す企画の検討や、ガイドの経験蓄積の場にもなるなどの間接

的な成果もありました。また、事業の実施に向けて庁内の関係部署がそれぞれ主体的に準備を進めたことや、国土交通省 東北地方整備局 酒田港湾事務所および秋田市と組織を越えて連携できたことも財産となりました。

多くの地方都市と同様に、本市においても人口減少による地域の活力低下が大きな課題となっています。歴史文化、豊かな自然を体験して理解を深めることや、技術と知恵の結集である港湾などの社会資本の役割や必要性を知って活かしていくことは、交流人口、関係人口を拡大し、元気なまちづくりを行っていくうえで非常に大きな意義があると言えます。そのためには、またここに来たい、と思っただけのように、人々を迎える側の「熱意」と「工夫」が必要不可欠です。それがホスピタリティーであり、今後この経験を活かして、訪れる方がより楽しめる空間や機会をつくっていきたいと考えています。

最後に、ツアーに参加いただいた皆さまと、企画運営にご協力いただいた関係各位に対して、本誌面をお借りして心より御礼申し上げます。